

# 医療の社会連携・実装科学

科目責任者 小 橋 元  
学年・学期 4 学年・前期

## I. 前 文

令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて、医学生に求めたいことの中に次の記述がある。「今日の医師に求められる役割の一つとして、予防医療がある。すなわち、医療全体を考えるにあたっては、病気の診断や治療だけではなく病気の背景を考え、また健康の社会的決定要因、スポーツ・運動や栄養・食育の重要性についても認識することが必要である。また、幅広い視野を持つという観点では、患者一人一人がそれぞれに社会生活を営んでおり、在宅医療を含め医療現場で目にするのは患者の生活の一場面に過ぎないということを認識することも重要である。」

本講義では、予防医療に欠かせない保健・医療・福祉のプログラムについて医療の社会連携という視点から学び、かつ、これらプログラムを開発し全国に届け根付かせることが如何に難しいか、そして、これらプログラムを届けるための戦略として近年登場した実装科学について、講義や演習を通して学ぶ機会にしてほしい。

## II. 担当教員

教授	小 橋 元	公衆衛生学
教授	春 山 康 夫	公衆衛生学
准教授	遠 藤 源 樹	公衆衛生学
講師	松 原 優 里	公衆衛生学
助教	阿 部 美 子	公衆衛生学
外部講師	高 安 健 一	獨協大学 経済学部
外部講師	亀 田 義 人	順天堂大学
外部講師	小 菅 一 弥	壬生町
外部講師	林 和 彦	神楽坂乳業株式会社

## III. 一般学習目標

・社会を見つめ、社会と連携しながら人々の生活をまもるプロフェッショナルとしての医師の在り方、姿勢を学び、多様な場や人をつなぎ活躍できる医師像を知る。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 健康の社会的決定要因を学ぶ。
- 2) WHOが提唱するヘルス・プロモーションについて知る。
- 3) 医療における特許や産学連携について学ぶ。
- 4) 院内クリニカルパスや地域連携クリニカルパスについて学ぶ。
- 5) 医療連携と経営について学ぶ。
- 6) 社会実装の考え方について深く考える。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	15	水	4	壬生町における保健・医療・福祉の現状と未来	小 菅 一 弥	1
2		15	水	5	医師の起業による社会実装	林 和 彦	1
3		20	月	2	社会実装の考え方	高 安 健 一	1
4, 5		20	月	3~4	社会実装演習	高安, 小橋, 春山, 遠藤, 松原, 阿部	3
6		24	金	6	病院マネジメントと地域連携	亀 田 義 人	1
7~9		28	火	1~3	社会実装演習 発表会	高安, 小橋, 春山, 遠藤, 松原, 阿部	2, 5
10, 11	5	7	木	4~5	社会の中で医療を行うこと	小 橋 元	1
12		7	木	6	社会実装まとめ	小 橋 元	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

原則として、出席状況、レポート、演習時および発表会時の取組み姿勢等により総合評価する（100%）。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

随時、講義の中で紹介する。

#### VIII. 質問への対応方法

・原則的には、講義の中あるいは終了直後に対応する。

・公衆衛生学講座（総合教育研究棟11階／電話番号0282-87-2133, e-mail : pubhealth@dokkyomed.ac.jp）が窓口となり、講義担当者に連絡する。月～金曜日（祝日を除く）8：30～17：00

#### IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	◎
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の内容については非公開。レポートのフィードバックは課題による。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。